

大学の国際化による
ソーシャルインパクト創出支援事業

取組紹介



2026.5.26
学長記者懇談会

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業

概要およびこれまでの取組

九州工業大学	
<ul style="list-style-type: none"> 国立大学 理系大学 	<ul style="list-style-type: none"> 産学官連携 AIデータサイエンス教育 アントレプレナーシップ教育



立命館アジア太平洋大学	
<ul style="list-style-type: none"> 私立大学 文系大学 	<ul style="list-style-type: none"> 国際学生約50% 教員の外国籍比率約50% 多言語教育



組織・地域・分野を超え
グローバルに価値を創出する人材
育成



これまでの取組

多文化共修

産学官・高大連携による超PBLプロジェクト

筑豊地域の外国人材受け入れ企業が抱える実際の課題を対象に、大学生と高校生による混成チームを編成し、デジタルツールおよびAI技術を活用した課題解決活動を実践的に行うプロジェクト



社会実装・地域創生人材副プログラム開発プロジェクト

異なる専門分野の学生が協働し、グローバル化と地域社会の変化を理解しながら、工学・情報工学の知識を応用して地域課題を解決できる人材を育成することを目的とする。教育心理学・教育工学の理論に基づき、学生の主体的・協働的な学びを促すカリキュラムを開発し、知識伝達型教育から探究的・実践的な学びへの転換を図る。





SI事業の取組の質を高め、より高度化するために、これまでAPUが蓄積してきた多文化共修に関する様々なノウハウを共有いただく目的で、APUと九工大とが共催で下記の2つのFD研修を実施

「多文化共修FD研修会」

- ・ 2025年6月25日：APU6名、九工大52名

「異文化感受性研修」

- ・ 2025年12月15日：APU72名、九工大18名、他大学・教育機関・企業等54名



また、多文化共修科目の開発に必要な知見を得るためAPUの下記科目に参加

「多文化協働ワークショップ（MCW）」

- ・ 2025年11月及び12月：九工大10名

フィンランド発祥のJUNCTIONのローカル版である「JUNCTION X」を日本で初めて開催した。
これに先立ち、フィンランドアアルト大学の学生起業家コミュニティの「Aaltoes」とのMOUを締結。JUNCTION Xの開催にあたり、JUNCTIONとのライセンス契約を締結。
©九工大とAPUの学生が主体となって運営。
日程：2025年9月26～28日
場所：九州工業大学戸畑キャンパス「GYMLABO」
運営学生：九工大9名、APU生8名
参加者：34名（うち九工大生20名、APU生9名）



◆協賛企業・自治体（50音順）

- 九州電力
- 京セラ
- トヨタ自動車九州
- 日鉄ソリューションズ
- NEC
- ピクシブ
- 村田製作所
- (公財)北九州観光コンベンション協会



東京科学大学、立命館アジア太平洋大学（APU）、九州工業大学の3大学による合同ハッカソンを、APU（大分県別府市）にて開催した。ハッカソンでは、「越境と交流」をテーマに、3日間の集中開発に取り組み、最終日には成果発表を実施し、企業エンジニアによる審査の結果、九州工業大学の学生チームが金賞を受賞した。本イベントは、異なる専門分野や文化的背景を持つ学生が協働し、短期間で成果を創出する貴重な機会となった。

【概要】

日程：2026年3月14日～16日
 場所：立命館アジア太平洋大学（APU）
 参加者：44名（東京科学大23名、APU4名、九工大17名）

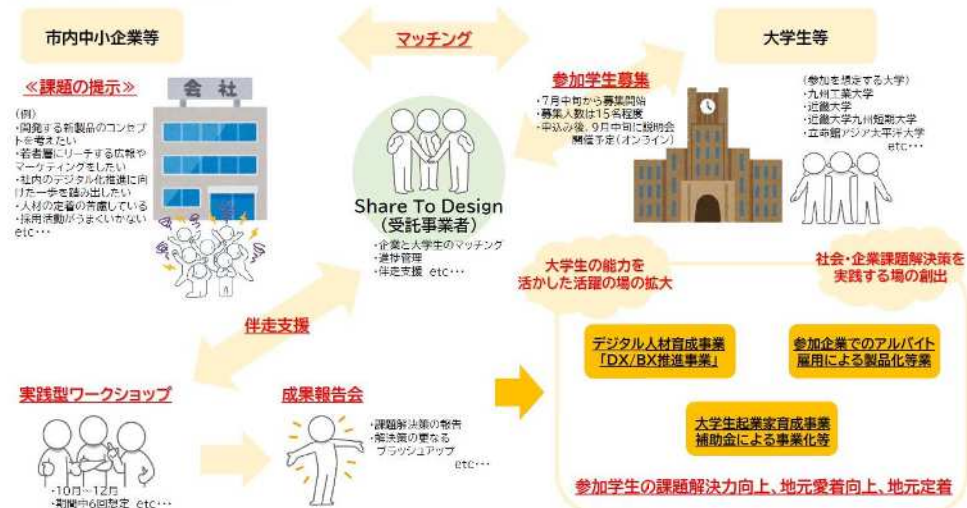


○飯塚市産学官交流・共働促進事業 令和7年度実績について
 ～令和7年度の産学官交流・共働促進事業概要～

【事業目的】

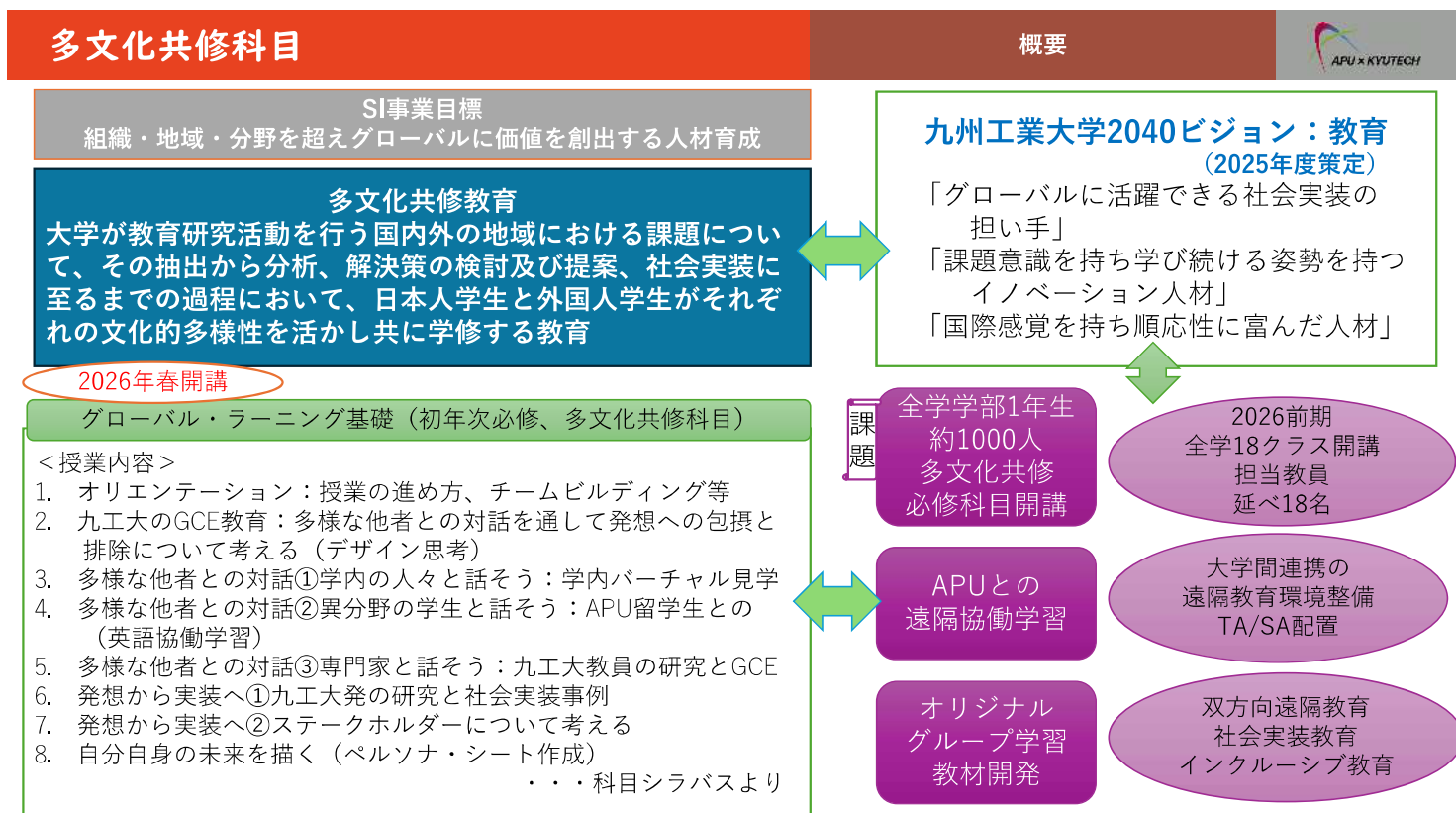
地域の中小企業が抱える課題について、企業の方々と大学生・大学院生等が主体となり現状分析やその解決に向けて企業の方々と参加学生との交流や共働を促進し、両者による課題解決策の検討やその実行を通じた、企業の魅力向上や参加学生の課題解決力の向上を図る。

【事業全体像(イメージ図)】



大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業

現在の取組①

学部1年生向け必修多文化共修科目

多文化共修科目

必修科目「グローバル・ラーニング基礎」



グローバル・ラーニング基礎科目

APU留学生との英語遠隔協働学習（情報工学部）



多文化共修科目

必修科目「グローバル・ラーニング基礎」



英語遠隔協働学習ツール（Padlet）

APU生（SA）の遠隔協働学習支援（別府）



APU協働学習の振り返り

・・・APUの留学生は、自分の意見をはっきりと伝え、積極的に議論に参加していた。また、文化の違いから発想も多様で新鮮だった。一方で、「より良いアイデアを出したい」という目的は共通していた。これらの違いや共通点により、自分の視野が広がり、議論も活発に進んだと感じた。今回、自分は進行役として議論をまとめる役割を担い、途中で2回APUの留学生に質問をした・・・（工）

・・・ディスカッションでは、インドネシア出身の人と話し、日本との違いを多く感じた。まず、道路交通に対する意識が大きく異なっていた。日本では信号や横断歩道を守る人が多いが、インドネシアではスピードを出して運転する人や赤信号でも止まらない人がいると聞き、とても驚いた。また、イヤホンについての考え方も印象的だった。私は普段ノイズキャンセリングイヤホンを便利だと思っていたが、安全面を重視して、普通のイヤホンを使うべきだという考えを聞き、新しい視点を得ることができた・・・（情報工）

・・・APUの方と日本の不便なことについて話していた際に出てきたことで外で歩きながら食べ物をだべるのをしづらい雰囲気があるという話がありました。私自身は気にしたこともないことであり、話題の中に新しい視点が入り考えるきっかけになりました。また、APUの方がとても元気がよかったことが自分と異なると感じました。その元気の良さがあったことでとても話しかけやすい雰囲気ができていたと思います・・・（工）

・・・ディスカッションの中でとてもフレンドリーで、たくさん質問をしてくれました。また、第2言語を学んで外国に留学するという目的のために、とても高い英語のスキルを持っていらっしゃると思いました。また、言語の差はあっても何もかもが違うということはないのだと思いました。私たちが自分たちで勝手に外国人の人に壁を感じているだけで、話してみれば、クインさんも私たちと何ら歳変わらない普通の学生なんだなと思い・・・（情報工）

これから

副プログラム開講（2027年度～）

技術の社会実装に向けて

グローバル人材

世界とつながり、自分の考えを育てる

グローバル人材プログラムでは、語学力やコミュニケーション力を土台に、世界や社会を多様な視点で考える力を身につけます。1年・情報1学の学びを、国や文化の違いを越えて学び、他者と協働しながら行動できる人材を目指します。

言語×社会で学ぶ履修モデル

1年	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期
自分の興味した国や文化を学ぶ	英語と社会I	英語と社会II	英語と社会III	英語と社会IV	英語と社会V

卒業論文・卒業研究（卒業論文は卒業論文の提出が必須）

卒業論文・卒業研究のテーマ例

- ・ 経営戦略のケーススタディ（事例）
- ・ グローバル・ビジネス戦略
- ・ 人文学と情報の地平
- ・ 国際化と教育

卒業論文・卒業研究のテーマ例

- ・ 経営戦略のケーススタディ（事例）
- ・ グローバル・ビジネス戦略
- ・ 人文学と情報の地平
- ・ 国際化と教育

卒業論文・卒業研究のテーマ例

- ・ 経営戦略のケーススタディ（事例）
- ・ グローバル・ビジネス戦略
- ・ 人文学と情報の地平
- ・ 国際化と教育

社会実装・地域創生人材

コミュニティと共に学び、共に成長する

社会実装・地域創生人材プログラムでは、世界と地域のつながりを理解しながら、工学・情報1学の知識や技術を地域社会の課題解決に生かす力を身につけます。講義を通して地域の課題を捉え、専門分野の学びを生かして解決策を考え、多様な人と協働しながら社会に働きかける人材を目指します。

地域創生プロジェクトに向けた履修モデル

STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
社会実装の基礎 1. 社会実装の基礎 2. 社会実装の基礎	社会実装の基礎 1. 社会実装の基礎 2. 社会実装の基礎	社会実装の基礎 1. 社会実装の基礎 2. 社会実装の基礎	社会実装の基礎 1. 社会実装の基礎 2. 社会実装の基礎

マネジメント・アントレプレナーシップ人材

自分の価値観を軸に挑戦する

マネジメント・アントレプレナーシップ人材プログラムでは、経営学を基盤に、社会課題の解決や新しい価値を生み出す力を身につけます。事業づくりや起業の考え方、技術を社会で活かすためのマネジメントを学び、実践を通してリーダーシップや行動力を身につけます。

関心を広げ、事業づくりに繋げる履修モデル

人文社6科目	経営科目	産科科目
考え方の基礎を学ぶ ・ 経営学 ・ 経営学 ・ 経営学	基礎を固めて1台を作る ・ 経営学 ・ 経営学	スキルを伸ばす ・ 経営学 ・ 経営学

データサイエンスと社会

データを社会と結び、より良い選択を模索する

データサイエンスと社会プログラムでは、情報化が進む社会の中で、データをもとに社会課題を考え、解決に生かす力を身につけます。データの集め方・分析のしかた・伝え方を学びながら、工学・情報工学の知識と人文・社会系の視点を組み合わせて、社会に役立つ人材を目指します。

データで社会を読み解く履修モデル

基礎科目	応用科目
基礎科目(1) (1単位) 基礎科目(2) (1単位)	応用科目(1) (1単位) 応用科目(2) (1単位)

全学共通
4つの「副プログラム」

遠隔講義科目群
+
フィールド科目群

(2年～4年で10単位履修)
各プログラム修了者に
オープンバッジ付与



例

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業

現在の取組②

留学生の就職支援

留学生の就職支援

本学の留学生事情



特徴

- 40か国・地域の学生が在籍
- 大学院レベルの留学生、特に博士後期課程の留学生が多い
(博士前期課程約9%、博士後期課程**47.5%**)

日本の経済成長や技術革新に貢献できる
高度な知識・技能・実務経験の高度外国人材の育成

- 中国、韓国、インドネシア、マレーシア、タイ、フランスからの留学生が多い
- 英語だけで修了できるコースを複数用意

文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う
特別プログラム」5件採択

課題

「日本で働くこと」について関心があるものの、**十分に知識を得る機会がない**まま、就職活動や修了の時期を迎える学生も少なくない

日本語の必要性、日本独特の就活フロー等



学生数	戸畑キャンパス			飯塚キャンパス			若松キャンパス		計
	学部	前期	後期	学部	前期	後期	前期	後期	
総数	2,376	641	79	1,803	489	39	298	103	5,702
留学生	14	46	38	5	37	19	47	48	235

※2025.5.1 現在

文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY

「留学生就職促進教育プログラム認定制度」の審査結果について(令和8年3月)

1. 趣旨・目的

2. 申請状況及び認定プログラムについて

東京理科大学	留学生就職促進型キャリア形成プログラム(キャリア)
京都府立総合科学大学	国際留学生就職促進プログラム
岡山大学	海外留学生キャリア支援プログラム(総合キャリア)
神戸大学	神戸大学国際展開留学生キャリア支援プログラム
長崎大学	留学生創出支援プログラム(キャリア)
大阪大学	高度外国人材育成支援プログラム
北摂大学	北摂大学留学生キャリア形成支援プログラム
神戸学院大学	APU・KCU国際留学生就職促進教育プログラム
九州工業大学	Kyutech留学生キャリア形成支援プログラム
広島女子大学	国際留学生就職促進教育プログラム

Kyutech留学生キャリア形成支援プログラム (通称: Kyutech EDGE)
Kyutech Employment Development for Global Excellence

背景 本学は「就職に強い九工大」として広く認知され、令和6年度の学部・大学院修了者の就職率はともに100%である。また、教育の国際化にも極めて積極的に、大学機関別選択評価にて「**一般的な水準から卓越しているとの最高評価**」を受け、令和6年度には立命館アジア太平洋大学と連携して「**大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業**」に採択された。今回、高度専門技術者を国内に数多く輩出してきた実績を高度外国人材にも拡大するために、**大学院留学生が国内企業で活躍できる強力な教育プログラム体制を構築する。**

- 目的**
1. 日本語力およびキャリア形成に必要な能力の体系的な育成
 2. 産業界との協働による実践的な学びを通じた、就業場面の理解と経験
 3. 伴走支援やコミュニティ形成を通じた**留学生の継続的な成長と国内企業への円滑な就職・職場適応支援**

学生のレベルに応じて、大学が指定する科目群から修了要件に必要な80ポイント以上を修得する。履修定員は入学時期ごとに10名程度。日本語能力試験N3レベル相当以上の学生を対象とする。

科目群	日本語教育 30ポイント以上 日本語 20ポイント以上 ビジネス日本語 10ポイント以上 日常生活からビジネス場面まで適切に対応できる言語運用力を身につけ、国内企業での長期的な活躍に必要な日本語能力を習得する。中級コースでは日本語能力検定のN3からN2、上級コースではN2からN1レベルへのステップアップを目指す。	キャリア教育 30ポイント以上 日本事情 各種セミナー 講義に加え、企業と協働して実施するセミナー・ワークショップ(企業・業界研究会、OBOG座談会、セミナーを含む)を通じて、知識を実践につなげ、現場で活躍できるキャリア形成に必要な能力を育成する。	インターンシップ 20ポイント以上 課題解決型 業務遂行型 共同研究 企業と連携してインターンシップを実施する。事前指導とマッチング支援を行い、大学から学生を派遣する。活動終了後は、企業からフィードバックを受け、学内で報告会を開催する。
-----	---	---	---

- Kyutech EDGE 9つのポイント**
1. **大学院留学生特化型プログラム**
大学院生を対象を絞り、より専門性の高い優秀な人材を国内企業につなげる
 2. **ポイント制**
ポイント制により、既存カリキュラムの枠にとらわれない柔軟なプログラム履修を実現
 3. **2コース制**
既存語学力を基準に2コース設置
 4. **春入学学生・秋入学学生双方に対応**
 5. **入学前からプログラム修了までの継続支援**
入学前事前学習から、プログラム履修、そして修了後も、大学院修了まで継続支援
 6. **有資格職員による伴走支援**
日本語教員資格やキャリアコンサルタント資格を持つ職員が定期的にアラング・各種相談・日本語学習補助に対応
 7. **日本語能力試験の受験料補助**
九工大基金からの支援により、プログラム履修生の日本語能力試験受験を経済的に支援
 8. **企業・自治体とのコンソーシアムによる企業支援**
コンソーシアムにて、留学生の受入事例共有やセミナーを実施。採用やインターンシップ時のミスマッチや課題を解消
 9. **大学院修了後の留学生リスキング支援**
本学の出資子会社「Kyutech ARISE」が提供する科目を修了生に提供し、いつでもリスキングできる環境を整備 18

サポート体制

スタッフ伴走支援 ●日本語教員資格を持つ職員によるプログラム伴走支援・日本語学習補助 ●キャリアコンサルタント資格を持つ職員によるキャリア相談 ●個別マッチング支援等	コミュニティ支援 ●プログラム履修生のコミュニティ形成 ●地元企業・自治体とのコンソーシアム設立、コンソーシアム参画機関等による履修生支援 ●プログラム履修生・企業交流イベント	大学・同窓会等支援 ●企業・業界研究会、OBOG座談会、セミナー、筆記試験対策 ●同窓会や九工大会員による支援 ●日本語能力試験受験料補助 ●大学院修了後のリスキング科目提供
---	--	--